

秋田県埋蔵文化財センター年報

9

平成2年度

1991・3

秋田県埋蔵文化財センター



鴨子台遺跡出土のナイフ形石器



鴨子台遺跡出土の彫器(左3点)と搔器など



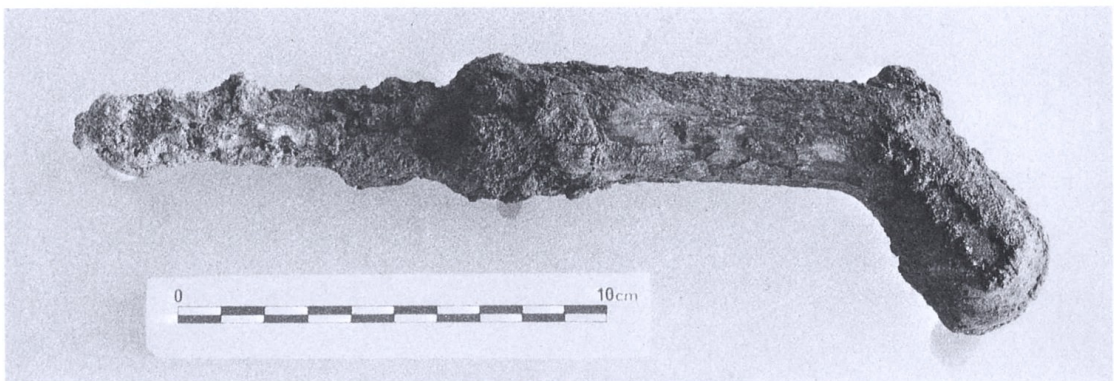
鴨子台遺跡出土の刃部磨製石斧



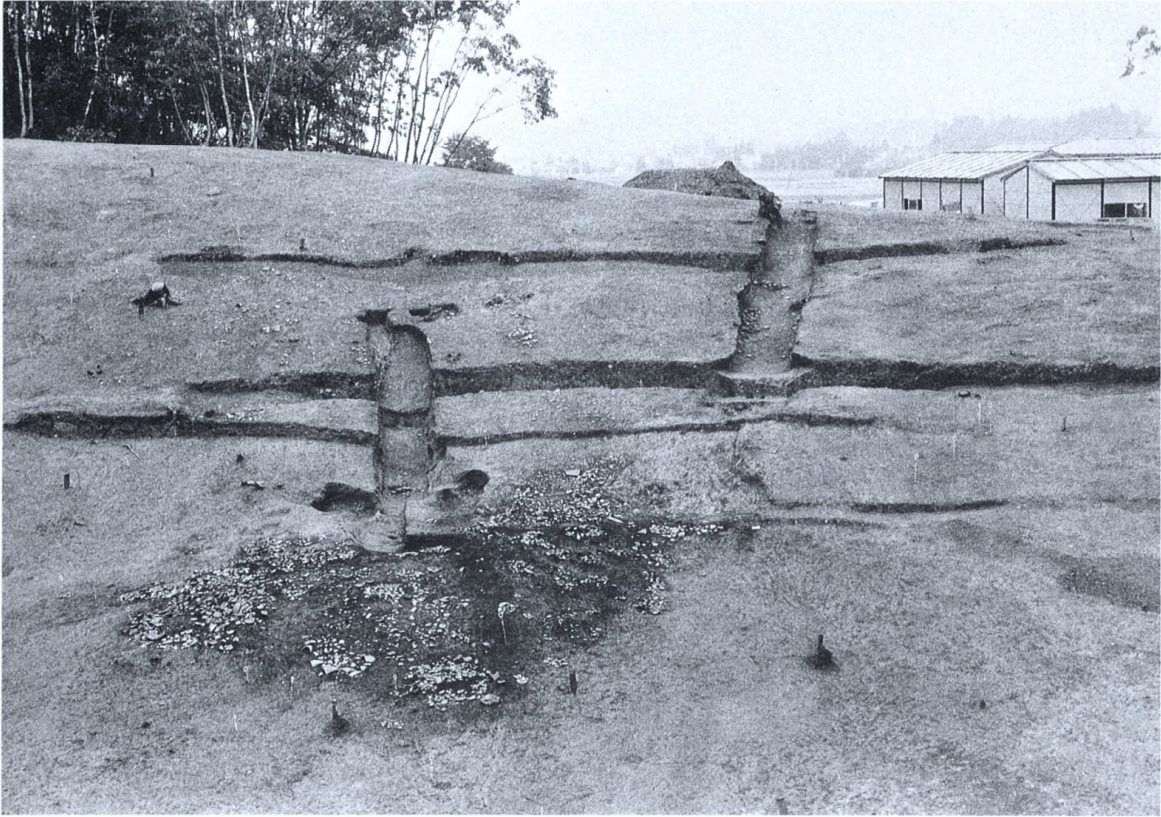
田久保下遺跡 古墳時代土壙墓の調査風景



田久保下遺跡 古墳時代土壙墓 S K 308 出土の須恵器坏蓋



田久保下遺跡 古墳時代土壙墓 S K 308 出土の小刀(「マキリ」)



富ヶ沢B窯跡の全景



富ヶ沢B窯跡の壁に残る構築材の痕跡

序

当埋蔵文化財センターがスタートしてから今年で10年になります。その間に発掘調査を実施した遺跡は135遺跡、発掘総面積は594,839㎡におよんでいます。

以上のような調査の結果、旧石器時代から明治時代頃までの資料が蓄積され、また得られた情報は大変な量になります。それらは秋田県内はもとより、全国的に活用されております。

今年度は秋田ふるさと村建設事業に伴って発掘調査した田久保下遺跡から県内では初めての古墳時代（6世紀）の土壙墓が8基確認され忘れられない年となりました。

もうひとつ忘れられない事がありました。それは長年秋田県の考古学を育て、私達を指導して下さった奈良修介先生が亡くなられた事です。現在ある秋田県の考古学は奈良先生が築かれたものと言っても過言ではありません。先生のご冥福を職員一同で心からお祈り申し上げたいと思います。

本年報は今年度発掘調査を実施した概要と当センターの活動をまとめたものであります。ご活用いただくとともに、今後とも当センターへのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成3年3月15日

秋田県埋蔵文化財センター

所 長 富樫 泰時

例 言

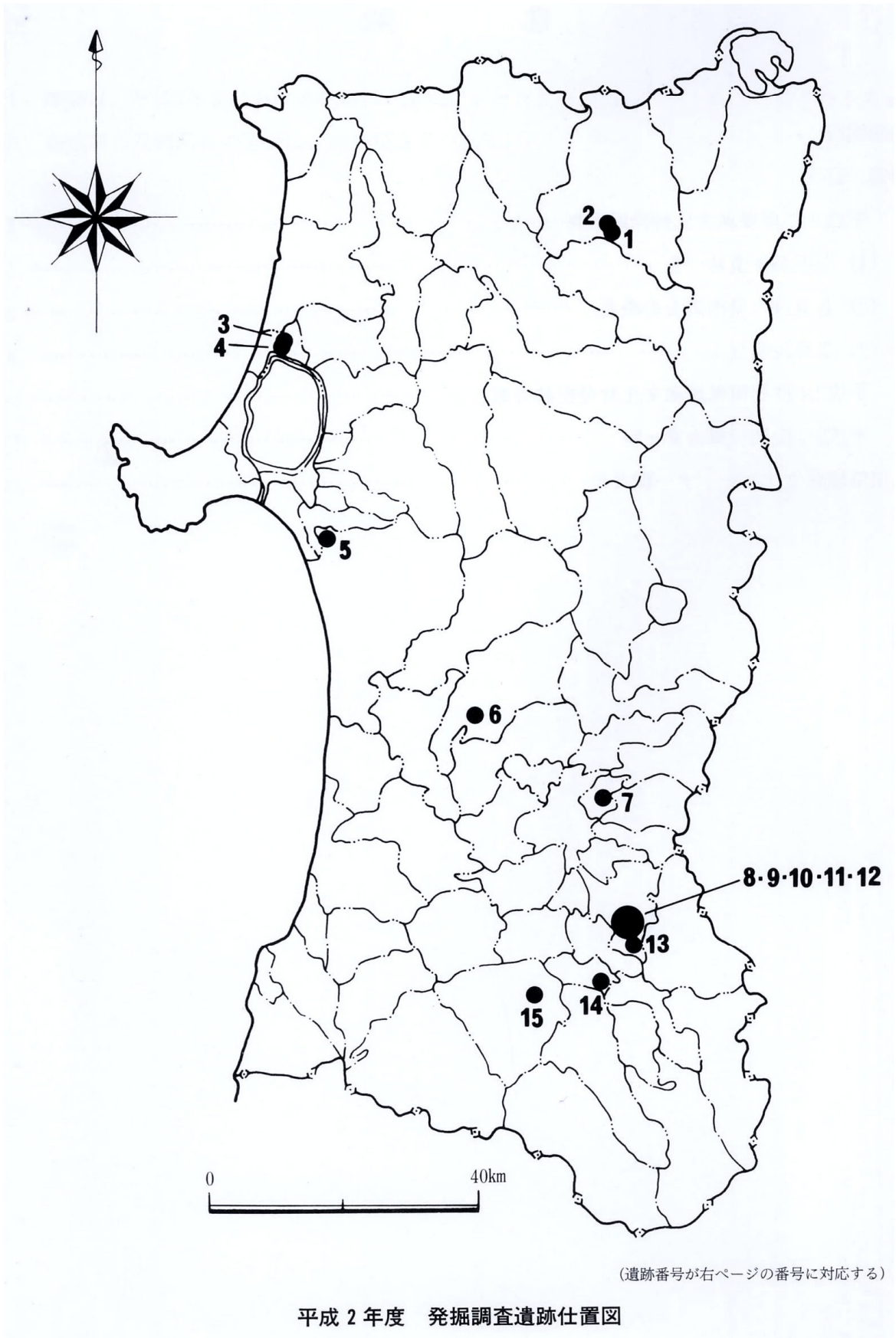
- 1 本書は、平成2年度における秋田県埋蔵文化財センターの活動内容をまとめたものである。
- 2 各遺跡の発掘調査の概要は、調査担当者が執筆した。

目 次

巻頭図版

例言、目次

1	平成2年度埋蔵文化財発掘調査	1
(1)	発掘調査遺跡一覧	1
(2)	各遺跡の発掘調査の概要	2
(3)	現地説明会	9
2	平成2年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会	10
3	平成2年度刊行報告書一覧	13
	秋田県埋蔵文化財センター職員録	14



1 平成2年度埋蔵文化財発掘調査

(1) 平成2年度発掘調査遺跡

平成2年度に、秋田県教育委員会が調査主体となって行った遺跡の発掘調査は、以下の通りである。

平成2年度 発掘調査遺跡一覧表

NO	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	時代	原因事業名
1	上ノ山I遺跡	大館市	9月3日～10月19日	840㎡	縄・弥	国道103号道路改良工事
2	餌釣遺跡	大館市	6月4日～8月31日	2,610㎡	縄・平・中	国道103号道路改良工事
3	鴨子台遺跡	八竜町	7月2日～11月22日	11,450㎡	旧・縄・近	琴丘・能代道路建設事業
4	八幡台遺跡	八竜町	8月21日～10月31日	3,500㎡	縄・(中)	琴丘・能代道路建設事業
5	松館遺跡	秋田市	5月14日～7月10日	2,100㎡	縄・中	秋田外環状道路建設事業
6	和田遺跡	協和町	5月21日～6月22日	1,000㎡	縄・弥	県道協和・松ヶ崎線道路改良工事
7	払田柵跡	仙北町 千畑町	4月9日～12月15日	1,087㎡	平	学術調査
8	富ヶ沢A窯跡	横手市	8月20日～10月31日	4,200㎡	縄・平	秋田ふるさと村建設事業
9	富ヶ沢B窯跡	横手市	7月12日～9月27日	4,200㎡	平	秋田ふるさと村建設事業
10	富ヶ沢C窯跡	横手市	6月4日～8月10日	2,900㎡	平	秋田ふるさと村建設事業
11	田久保下遺跡	横手市	9月19日～11月28日	1,400㎡	古・平	秋田ふるさと村建設事業
12	富ヶ沢塚群	横手市	6月4日～8月10日 8月6日～9月6日 10月29日～11月14日	1,600㎡	近	秋田ふるさと村建設事業
13	新町遺跡	横手市	8月27日～10月18日	1,750㎡	縄	東北横断自動車道秋田線建設事業
14	宝竜堂遺跡	十文字町	11月5日～11月22日	300㎡	縄	公害防除特別土地改良事業
15	七窪遺跡	羽後町	7月23日～7月31日	50㎡	平	公害防除特別土地改良事業

※ 旧＝旧石器時代 縄＝縄文時代 弥＝弥生時代 古＝古墳時代 平＝平安時代
中＝中世 近＝近世

(2) 各遺跡の発掘調査の概要

かみ やま 上ノ山 I 遺跡

所在地	大館市山館字上ノ山56-1、外	事業名	国道103号道路改良工事
調査期間	平成2年9月3日～10月19日	事業関係機関	秋田県土木部北秋田土木事務所
調査面積	840㎡	調査担当	柴田陽一郎・石川真一

上ノ山 I 遺跡は、米代川の右岸約500mの標高77～90mの関上段丘上にあり、眼下の沖積低地との比高差は18～30mである。本遺跡は、昭和62年に第1次調査が行われており、今回は第1次調査区の東隣を調査したもので、第2次調査に当たる。第1次調査では、主に縄文時代前期から中期の竪穴住居跡などの遺構が38、他に大規模な捨場が検出されている。

今回の調査でも、主に縄文時代前期から中期（主体は円筒土器下層式期）にかけての遺構が48検出された。その内訳は、竪穴住居跡5軒・土坑7基・フラスコ状（袋状）土坑29基などの他、捨場も1カ所で確認された。竪穴住居跡は、平面形が楕円形もしくは円形で、その中の1軒は長軸10mほどのものもある。フラスコ状土坑の規模は、大部分が径0.9～1.2m、深さ1.0～1.7mであるが、径1.6mの大型のものもある。遺物は、縄文時代前期のものを主体とし、縄文時代早期・中期・晩期、弥生時代、平安時代の土器などがコンテナで180箱出土した。

えづり 餌釣遺跡

所在地	大館市餌釣字館27	事業名	国道103号道路改良工事
調査期間	平成2年6月4日～8月31日	事業関係機関	秋田県土木部北秋田土木事務所
調査面積	2,610㎡	調査担当者	小畑 巖・櫻田 隆・和泉昭一・小山内透

餌釣遺跡は、大館市東部に位置する高森（593m）を中心とする山地の西側縁辺部から半島状に延びた台地上に立地する。台地の広さは東西200m、南北30～60mほどである。今回の調査対象地（道路敷地）は台地の東側に当たり、台地を東西に切るように走る。標高は78～81mで、餌釣集落との比高差は約14～17mである。

調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡2軒・焼土遺構1基、平安時代の竪穴住居跡8軒・土坑16基・焼土遺構1基、中世の竪穴建物跡4棟・土坑3基・焼土遺構2基・空堀1条・柱穴様ピット955個の遺構が検出された。出土遺物はコンテナ10箱である。この中では特に中世において、空堀によって区画された中に掘立柱建物跡や竪穴建物跡が建てられ、館跡として機能したことが明らかになった。このことは、遺跡の北西約0.5kmに位置する餌釣館跡等との関係を考察する上で好資料となるものと思われる。

かものこだい
鴨子台遺跡

所在地	山本郡八竜町鶴川字鴨子台6、外	事業名	琴丘能代道路建設事業
調査期間	平成2年7月2日～11月22日	事業関係機関	建設省東北地方建設局能代工事事務所
調査面積	11,450㎡	調査担当者	庄内昭男・榮 一郎・谷地 薫・小林 克 小山内透・斎藤典芳

遺跡は、浅内海岸低地をはさんで日本海砂丘地と平行に走る成合台地上の、樹枝状に入り込む開析谷の谷頭周囲の、比較的平坦な凹地周辺に立地している。

調査の結果、竪穴住居跡1軒、土坑3基、埋設土器2基、焼土遺構27基、陥し穴5基、溝跡2条、旧石器時代遺物集中地点4箇所などを検出した。このうち焼土遺構の一部と溝跡は、古代以降の土地利用に関連するものと推定されるが、他の遺構は縄文時代早期～後期に属するものと推定される。また、旧石器時代遺物集中地点からは二側縁加工のナイフ形石器、エンドスクレイパー、彫器、石刃、石核、環状石製品などが約1,000点出土している。

このほかの出土遺物には、縄文時代草創期の頁岩製の刃部磨製石斧、縄文時代早期～後期の土器・石器、近現代陶磁器などが約800点あるが、その分布は点的である。

今回の調査から本遺跡は旧石器時代以降、断続的に短期間営まれてきたものと推定される。

はちまんだい
八幡台遺跡

所在地	山本郡八竜町鶴川字八幡台85-4、外	事業名	琴丘能代道路建設事業
調査期間	平成2年8月21日～10月31日	事業関係機関	建設省東北地方建設局能代工事事務所
調査面積	3,500㎡	調査担当者	庄内昭男・斎藤典芳

八幡台遺跡は、一般国道7号に沿って誘致された八竜工業団地の東側の丘陵地にある。調査地は、A・B2地区に分かれ、A地区では4基の焼土遺構と1基のTピットを、B地区では480cmもの長さがあるTピット1基と、幅1m・長さ20m以上の溝跡を検出した。

それぞれの遺構に伴う遺物がなく、年代の決め手に欠けるが、周辺から出土した遺物から、Tピットは縄文時代前期から後期、焼土遺構は縄文時代後期、溝跡は中世頃のものとして推定される。出土遺物はコンテナ3箱ほどである。

まつだて
松館遺跡

所在地	秋田市金足岩瀬字松館29-10、外	事業名	秋田外環状道路建設事業
調査期間	平成2年5月14日～7月10日	事業関係機関	建設省東北建設局秋田工事事務所
調査面積	2,100m ²	調査担当者	庄内昭男・小林 克・斎藤典芳

遺跡は秋田市の北端、昭和町草生土より北西に延びる幅300～800mの丘陵の南縁に位置し、舌状に張り出した台地上にある。中世城館としての地形的特徴を備えており、『秋田県の中世城館』にも松館跡と紹介されていることから、当初城館跡として調査を開始した。しかし、調査区内から城館跡にかかわる遺構・遺物は全く検出されず、中世城館跡を構成する郭面造成によると思われた地形の変容も、戦中・戦後の開墾によるものと判断された。

ただし、開墾により遺構・遺物が全くなくなっているわけではなく、東側斜面では、縄文時代の石器（扁平打製石器・石鏃・石匙など）や土器がコンテナ3箱分出土しており、南端部では中世以降の年代が推定される4基の火葬墓が検出された。第1・第3号火葬墓は炭のまとまりとして、第2・第4号火葬墓はピット内に炭と骨が混在している状況で確認されたものであり、いずれも、他の場所にあると思われる茶毘所から収骨しているものである。

わた
和田遺跡

所在地	仙北郡協和町上淀川字和田149	事業名	県道協和松ヶ崎線道路改良工事
調査期間	平成2年5月21日～6月22日	事業関係機関	秋田県土木部仙北土木事務所
調査面積	1,000m ²	調査担当者	高橋 学・石川真一

和田遺跡は奥羽本線羽後境駅の南南西約2.5kmに位置している。遺跡はその南を西に向かって蛇行する淀川（雄物川の支流）が形成した段丘面（中位Ⅲ段丘、標高45～50m）上に立地している。調査の結果、弥生時代後期の焼土遺構1基・柱穴状ピット3基、縄文～弥生時代の土坑4基・フラスコ状土坑1基、及び現代（戦後か）の炭窯1基・土坑1基が検出された。遺構内出土の遺物はなく、遺構周辺出土の遺物及び遺構の形態から時期を想定している。

遺構外出土遺物は、弥生時代後期（天王山～小坂Ⅹ式）の土器を中心とし、縄文時代後～晩期の土器も少量確認している。石器では磨製石斧・石匙・筥状石器・凹石・磨石・台石などがあるが、これら石器のうち弥生時代に帰属するのは、礫石器類だけのようである。また土製品では、弥生時代の紡錘車1点（推定径7.5cm）がある。表面にへら状工具による連弧状の文様が描かれている。遺物はコンテナ2箱である。

はったのさくあと
払田柵跡

所在地	仙北郡仙北町払田・千畑町本堂城回	事業名	学術調査
調査期間	平成2年4月9日～12月15日	事業関係機関	秋田県教育庁払田柵跡調査事務所
調査面積	1,087㎡	調査担当者	児玉準

第84～87次にわたる調査を行った。第84次調査は、外郭・内郭北東部の145,000㎡を対象に、ハンド・ボーリングによる地山レベルの計測・遺物の表面採集などの記録作成を中心に行い、地山地形の様相を把握した。また、2地点において花粉分析試料を採取した。

第85次調査は昨年発見した内郭西門の調査で、極めて良好な状態で内郭西門を検出した。内郭西門は、長森丘陵の西端の標高40m前後の位置にあり、現水田との比高は6mである。内郭東門・南門と同様に掘立柱による八脚門で、4時期にわたる造営がある。西側の隅柱と築地土塀の間は角材列で、内郭線が八の字形に内側に入り込む位置に門が取り付けられている。第IV期の建て替えの際に建物を約3.5m東へ移動している、などの特徴がある。しかし、門の後方の急斜面・前面の削土などから、実際には門として機能しなかった可能性もある。

第86次調査は、長森丘陵の微地形測量調査である。第87次調査は外郭西門内側の調査であるが、遺構・遺物は検出されなかった。

とみがさわ
富ヶ沢A窯跡

所在地	横手市赤坂字富ヶ沢62-33、外	事業名	秋田ふるさと村建設事業
調査期間	平成2年8月20日～10月31日	事業関係機関	秋田県企画調整部
調査面積	4,200㎡	調査担当者	櫻田 隆・小畑 巖・和泉昭一・石川真一

遺跡は、横手市街地の南西側に広がる中山丘陵の中央部東端、標高74～80mの東向き斜面に立地する。北側に約150m隔てて郷土館窯跡が存在する。

調査の結果、平安時代の須恵器窯跡1基、平窯跡2基、竪穴住居跡1軒、土坑2基、溝状遺構4条を検出した。須恵器窯跡は、窯体長3.6m・最大幅1mの規模で、側壁には天井部を構築する際に打ち込んだ架構材の穴21対を確認した。溝状遺構4条は、須恵器窯跡のまわりに確認されたことから窯の外周りの排水用と考えられる。平窯跡2基は土師器焼成窯と考えられ、うち1基の奥壁には煙り出しと考えられる小さな掘り込みがあることから、粘土などを使用した上屋が架構されていたと思われる。このほか時期不明の土坑22基、フラスコ状土坑1基を検出したが、土坑6基の坑底面には小穴があり、このうちの2基から逆茂木らしい木材を検出した。伴出遺物はないが、縄文時代の陥し穴と考えられる。

とみがさわ
富ヶ沢B窯跡

所在地	横手市赤坂字富ヶ沢62-40、外	事業名	秋田ふるさと村建設事業
調査期間	平成2年7月12日～9月27日	事業関係機関	秋田県企画調整部
調査面積	4,200㎡	調査担当者	高橋 学・石川真一

遺跡は、横手市街地の南西側に広がる中山丘陵中央部東端の小さな谷の、標高75～82mの南向き斜面に立地する。富ヶ沢A窯跡が、北東側約120mに位置する。

調査の結果、平安時代の須恵器窯跡2基、土坑2基を検出した。須恵器窯跡は、窯体長7.9m・最大幅1.5mと、窯体長5.7m・最大幅1.1mの規模であるが、2基の窯とも壁と床の一部が二重になっており、少なくとも2回の操業が考えられる。また、2基の窯とも側壁には天井部を構築する際に打ち込まれた架構材（炭化材）が多数確認された。2基の窯の灰原は重複しており、調査前の現況地形でも斜面が盛り上がっていた。遺物は、窯体内には少なく、大部分が灰原と窯周辺から出土した。土坑2基は、須恵器窯跡1基の煙り出し孔の上位斜面で検出されたもので、土師器・須恵器が出土した。出土遺物はコンテナで166箱である。

とみがさわ
富ヶ沢C窯跡

所在地	横手市赤坂字富ヶ沢62-54、外	事業名	秋田ふるさと村建設事業
調査期間	平成2年6月4日～8月10日	事業関係機関	秋田県企画調整部
調査面積	2,900㎡	調査担当者	櫻田 隆・柴田陽一郎・小畑 巖・高橋 学 和泉昭一・石川真一

遺跡は、横手市街地の南西側に広がる中山丘陵中央部東端の小さな谷の、標高74～80mの東向き斜面に立地する。谷の東側に約200m隔てて富ヶ沢B窯跡が存在する。

調査の結果、平安時代の須恵器窯跡1基、竪穴住居跡1軒、土坑2基、焼土遺構2基、柱穴群1を検出した。須恵器窯跡は、窯体長7.5m・最大幅1.4mの規模であるが、側壁・床ともに遺存状態が不良で、天井部を構築する際に打ち込んだ架構材の穴などを確認することができなかった。灰原は、調査前の現況地形でも斜面に若干盛り上がりとなっていた。

竪穴住居跡は、一辺5.6mの方形を呈しているがカマドは検出できなかった。

土坑の埋土中には、灰白色の火山灰が堆積しているのが確認された。

出土遺物はコンテナで28箱である。

たくほした
田久保下遺跡

所在地	横手市婦気大堤字田久保下62-1	事業名	秋田ふるさと村建設事業
調査期間	平成2年9月19日～11月28日	事業関係機関	秋田県企画調整部
調査面積	1,400㎡	調査担当者	櫻田 隆・小畑 巖・高橋 学・和泉昭一

遺跡は、横手市街地の南西側に広がる中山丘陵の中央部東端、沖積地に隣接する標高72～80mの北東向き斜面とその下方の平坦面に立地する。北西側に約200m隔てて郷土館窯跡が、西側に約100m隔てて富ヶ沢A窯跡が存在する。

調査の結果、古墳時代の土壙墓8基、平安時代の須恵器窯跡3基、平窯6基、炭窯1基、竪穴住居跡8軒、掘立柱建物跡1棟、土坑19基、溝状遺構1条、焼土遺構3基、粘土採掘坑1ヶ所、柱穴様ピット多数を検出した。出土遺物はコンテナで31箱である。

土壙墓は、長さ1m、幅0.8m程の楕円形ないしは隅丸長方形プランを呈し、7基が東西方向に主軸をとって30～60cm間隔で南北に並んでいる。各土壙墓は、南東側の壁面を袋状に掘り込み土器を埋納し、底面には鉄製品を副葬している。鉄製品の一つは、アイヌの小刀である「マキリ」の中の一つに似た形態のもので、柄尻が峰側に屈折している。

とみがさわ
富ヶ沢塚群

所在地	横手市赤坂字富ヶ沢62-9、62-18、62-21、62、外		
事業名	秋田ふるさと村建設事業	事業関係機関	秋田県企画調整部
調査期間	平成2年6月4日～8月10日、8月6日～9月6日、10月29日～11月14日（2号・3号）		
調査面積	各400㎡	調査担当者	櫻田 隆・柴田陽一郎・小畑 巖・高橋 学・和泉昭一・石川真一

横手市街地の南西側に広がる中山丘陵の中央部東端で、沖積地を望む丘陵頂部（稜線上）に、平面形が古墳時代の前方後円墳を思わせる塚が4基点在するのを確認した。

現況規模は、1号が長さ16.7m・幅8m・高さ1.4m、2号が長さ11.6m・幅5.1m・高さ0.6m、3号が長さ15m・幅6.5m・高さ1.2m、4号が長さ10.8m・幅5.8m・高さ0.4mを計測する。構築にあたって、1号と3号及び4号が黒褐色土と黄褐色粘質土を交互に盛る版築を行い、2号は黒褐色土のみの盛土である。

遺物は、4号塚の表土から銅貨（寛永通寶）が10枚出土したのみである。

調査の結果では墓穴などは確認できず、中世以降の信仰に関連した塚、あるいは土地の境界などに目印として盛土されたものと考えられる。

しんまち
新町遺跡

所在地	横手市大屋新町字新町36、外	事業名	東北横断自動車道秋田線建設事業
調査期間	平成2年8月27日～10月18日		
事業関係機関	日本道路公団仙台建設局横手工事事務所		
調査面積	1,750m ²	調査担当者	大野憲司・佐藤尚明

遺跡は、横手盆地中央部東側の金峰山山地の支脈から、北西方向に延びる中山丘陵の付け根部分の小扇状地に位置している。

調査の結果、土坑10基、溝跡1条、柱穴7個が検出され、縄文土器や石器・剥片等がコンテナで3箱出土した。土坑のうち、埋土中から土器が出土するなどして確実に縄文時代とすることが出来るのは4基で、他の土坑も1基を除けば縄文時代と推定される。縄文時代の土坑のうち2基は、小型ながらも断面形がフラスコ状もしくは袋状を呈し、埋土中から縄文時代晩期の土器が出土している。縄文時代の遺物は、調査区全体から僅かずつ出土しており、特に集中する場所はない。以上の結果から、新町遺跡は、小さな扇状地中の微高地上に立地する後期から晩期の遺跡群の中の一つであり、土坑などを構築した人々の集落は、それら遺跡群のいずれかにあるものと考えられる。

ほうりゅうどう
宝竜堂遺跡

所在地	平鹿郡十文字町上鍋倉字宝竜堂50、外	事業名	公害防除特別土地改良事業
調査期間	平成2年11月5日～11月22日	事業関係機関	秋田県農政部平鹿農林事務所
調査面積	300m ²	調査担当者	柴田陽一郎・石川真一

宝竜堂遺跡は、横手盆地内の緩い扇状地上に位置する。遺跡の南方約100mには、北西に流れる大宮川がある。大宮川の右岸には西流する一本の沢筋があり、両者の合流点北側の標高80m前後の微高地上に今木神社が鎮座している。今木神社及びその周辺が遺跡の範囲である。

今回の調査区は排水路工事予定部分で、昭和46年の調査地点東端から25mほど東側に当たる。調査の結果、縄文時代中期大木7b・8a式土器が出土し、竪穴住居跡1軒、土坑2基、土器埋設遺構2基、柱穴様ピットの他、捨て場が検出された。北東部では土器埋設遺構、土坑、柱穴（竪穴住居跡）が重複しており、遺構群の変遷（墓域→居住域）のあったことが分かった。遺物はコンテナで30箱である。なお、昭和46年に十文字町教育委員会が主体者となって、今木神社の境内を調査している。この調査では、縄文時代中期の大木7a・7b・8a式土器とそれに伴う石器が出土し、竪穴住居跡に伴うと思われる柱穴などが検出されている。

ななくぼ
七窪遺跡

所在地	雄勝郡羽後町足田字七窪5-1	事業名	公害防除特別土地改良事業
調査期間	平成2年7月23日～7月31日	事業関係機関	秋田県農政部平鹿農林事務所
調査面積	50m ²	調査担当者	利部 修

七窪遺跡は、横手盆地の南部、羽後町の中心部から北へ3 km、雄物川と皆瀬川の合流点から西へ約3.5kmの低位な丘陵上にある窯跡である。この丘陵は径約2 kmの独立丘状を呈し、遺跡はその北側を南北に走る町道の東側緩斜面、標高67m前後に位置している。今回の調査地区は、昭和41年に4基の須恵器窯跡が調査された広範な広がりをもつ七窪遺跡の西端にあたっている。調査の結果、平安時代の土師器窯跡1基、須恵器窯跡2基、土抗2基、不明遺構1基を検出した。土師器窯跡は焚口と煙道を持ち、長さが1.75m×幅1.3mで焚口にかけて弯曲して狭まる羽子板状を呈している。須恵器窯跡は2基とも焼成部の長さ1.5m前後を留めるのみであるが、1基は堆積土中に火山灰を含んでいる。出土遺物はコンテナで2箱である。七窪遺跡は、平安時代前半の窯跡の在り方や土器の年代を考察する上で良好な資料と考えられる。

(3) 現地説明会

発掘調査の成果を、現地で広く県民に公表し、郷土の歴史と埋蔵文化財に対する理解を深めていただくための説明会を、以下の5遺跡で行った。

餌釣遺跡

期日 平成2年8月25日（土）

上ノ山I遺跡

期日 平成2年10月5日（金）

払田柵跡

期日 平成2年10月6日（土）

秋田ふるさと村（富ヶ沢A・B窯跡、田久保下遺跡）

期日 平成2年10月13日（土）

宝竜堂遺跡

期日 平成2年11月20日（火）

2 埋蔵文化発掘調査報告会

平成2年に行われた県内の遺跡発掘調査について、調査の概要を広く県民に報告する会を、以下のとおり行った。なお、今回の報告及び遺物展示は、古代の横手盆地を主テーマとし、秋田県教育委員会が調査主体であるものに限らず、市町村主体の調査及び、講演に深く関連する遺跡についても併せて行った。

集った参加者は、横手市・平鹿郡内の市町村をはじめ、県内外から2日間で約400名もあり、非常な盛会であった。

- (1) 主催 秋田県埋蔵文化財センター
- (2) 期日 平成3年3月9日(土)～10日(日)
- (3) 会場 横手平鹿広域交流センター(横手市前郷字下三枚橋)
- (4) 対象 一般県民
- (5) 次第

3月10日(土)

開会挨拶(富樫泰時 埋蔵文化財センター所長)

平成2年度県内発掘調査の概要(大野憲司 学芸主事)

報告

- 1 払田柵跡の調査(児玉 準 払田柵跡調査事務所文化財主任)
- 2 秋田城跡の調査(秋田市教育委員会主事 西谷 隆氏)

3月10日(日)

報告

- 3 田久保下遺跡古墳時代土壙墓の調査(高橋 学 学芸主事)
- 4 田久保下遺跡古代窯跡・富ヶ沢A～C窯跡の調査(櫻田 隆 文化財主査)
- 5 横手市の古代遺跡の調査(横手市教育委員会主任 澤谷 敬氏)
- 6 羽後町の古代遺跡の調査(羽後町教育委員会文化振興係長 鈴木俊男氏)
- 7 横手盆地の古代窯跡についてー竹原窯跡を中心にー(利部 修 学芸主事)

講演

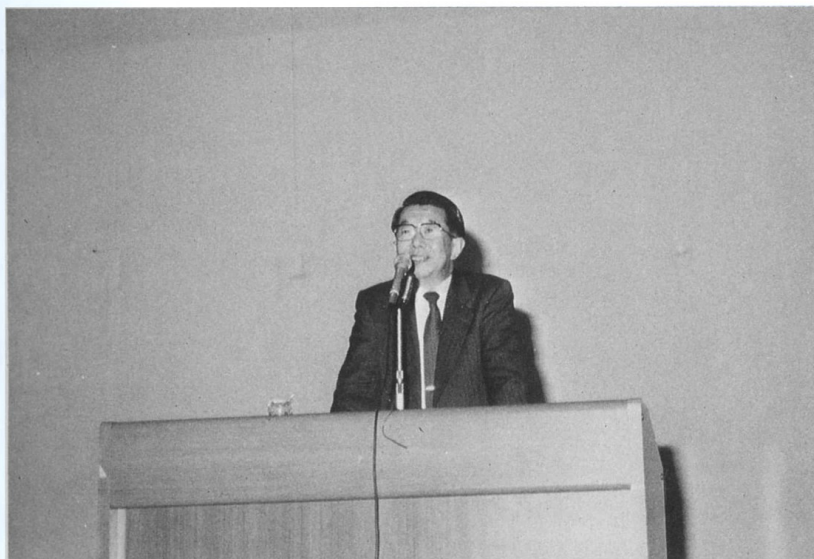
講師紹介

「古代出羽の史的位置」

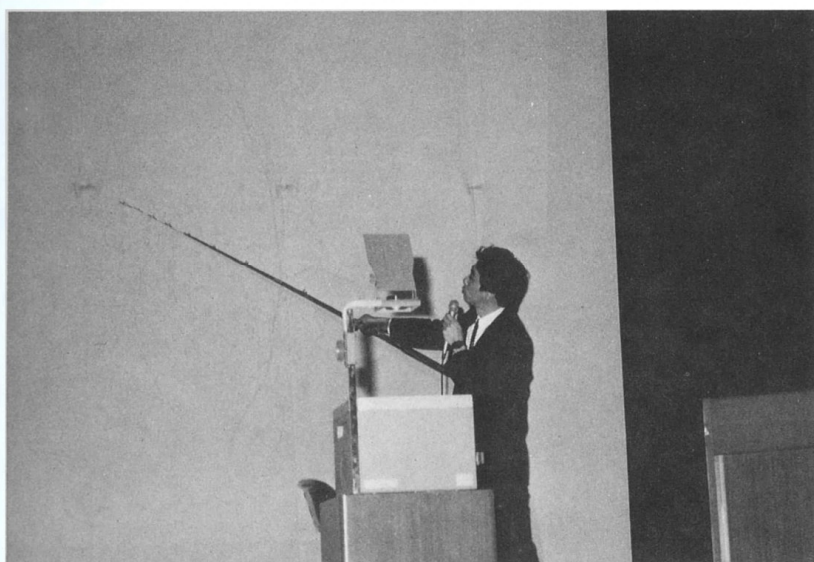
東京大学教授 笹山晴生氏

閉会挨拶

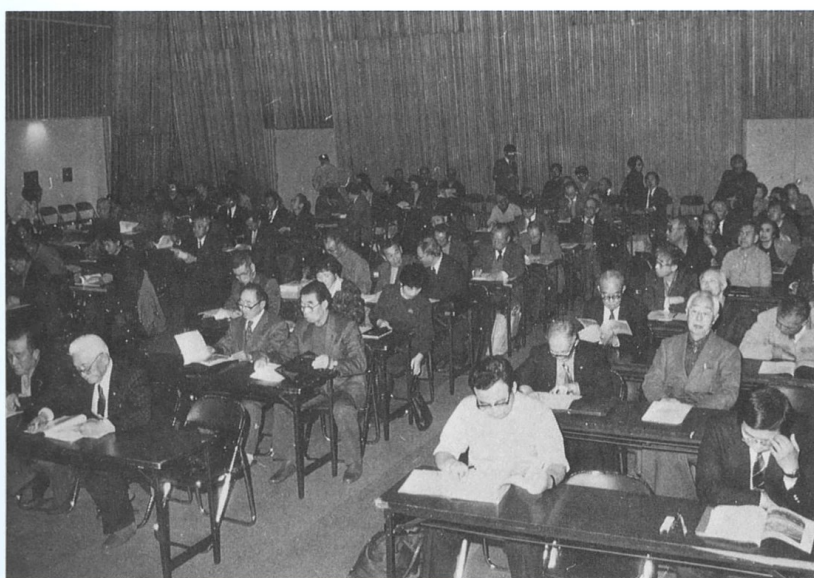
平成 2 年度 埋蔵文化財発掘調査報告会から



講演する笹山教授



「横手市の古代遺跡の調査」の報告



会場を埋めた参加者



秋田城跡出土の
漆紙文書の解説を
聞く参加者



展示パネル・遺物の
説明を聞く参加者



展示パネル・遺物を
熱心に見る参加者

3 平成2年度刊行報告書一覧

秋田県文化財調査 報告書第203集	片山館コ遺跡発掘調査報告書 —一般国道7号大館西道路建設工事に係る埋蔵文化財発掘調査—
秋田県文化財調査 報告書第204集	秋田外環状道路建設事業発掘調査報告書I —大沢・松館遺跡—
秋田県文化財調査 報告書第205集	東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書VII —北田山田ヶ沢I・II・大畑潜沢II・III遺跡—
秋田県文化財調査 報告書第206集	東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書VIII —小出I・II・III・IV遺跡—
秋田県文化財調査 報告書第207集	東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書IX —太田遺跡—
秋田県文化財調査 報告書第208集	東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書X —上猪岡遺跡—
秋田県文化財調査 報告書第209集	東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書XI —竹原窯跡—
秋田県文化財調査 報告書第210集	国道103号道路改良工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書III —餌釣遺跡—
秋田県文化財調査 報告書第211集	国道103号道路改良工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書IV —上ノ山I遺跡第2次調査—
秋田県文化財調査 報告書第212集	県道協和・松ヶ崎線緊急地方道路整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書II —和田遺跡—
秋田県文化財調査 報告書第213集	大砂川地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書II —上熊ノ沢遺跡—
秋田県文化財調査 報告書第214集	宝竜堂遺跡発掘調査報告書 —公害防除特別土地改良事業（三重地区） に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—
秋田県文化財調査 報告書第215集	七窪遺跡発掘調査報告書 —公害防除特別土地改良事業（亀田地区）に 係る埋蔵文化財発掘調査報告書—
秋田県文化財調査 報告書第216集	払田柵跡 —第84～87次調査概要—
秋田県文化財調査 報告書第217集	遺跡詳細分布調査報告書

秋田県埋蔵文化財センター職員録
(平成2年度)

所 長	富 樫 泰 時
副 所 長	木 村 登
主 査	佐 田 茂
主 事	高 橋 忠太郎
学芸主事	大 野 憲 司
学芸主事	榮 一 郎
学芸主事	利 部 修
学芸主事	小 畑 巖
学芸主事	高 橋 学
学芸主事	谷 地 薫
学芸主事	武 藤 祐 浩
文化財主査	庄 内 昭 男
文化財主査	櫻 田 隆
文化財主任	児 玉 準
文化財主任	柴 田 陽一郎
文化財主任	高 橋 忠 彦
文化財主事	小 林 克
文化財主事	栗 澤 光 男
非常勤職員	高 橋 中 二
非常勤職員	小山内 透
非常勤職員	和 泉 昭 一
非常勤職員	石 川 恵美子
非常勤職員	佐 藤 尚 明
非常勤職員	石 川 真 一
非常勤職員	斎 藤 典 芳
非常勤職員	佐 藤 一 誠

秋田県埋蔵文化財センター年報 9

(平成 2 年度)

発 行 平成 3 年 3 月
秋田県埋蔵文化財センター
秋田県仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地
電 話 0187-69-3331
印 刷 合資会社 精巧堂印刷所